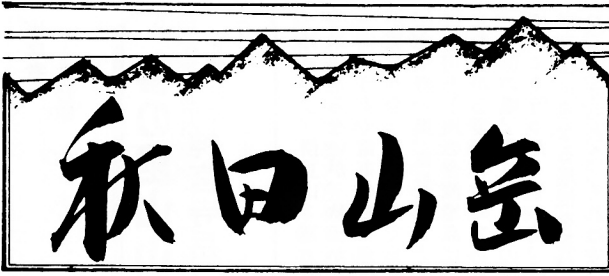


2011



平成 23 年 7 月 発行

No. 84

日本山岳会秋田支部

秋田市千秋久保田町
2番 23 号 佐々木方

TEL・FAX 018(833)2525

発行者 佐々木 民 秀
編集者 鈴 木 裕 子

●●●●●●●●●● 平成 23 年度 秋田支部総会 ●●●●●●●●●●

平成二十三年度秋田支部総会は、四月四日午後四時から、秋田市の「協働大町ビル」において開催された。開会の前に、三月十一日に発生した東日本大震災で犠牲になられた方々へ黙祷を捧げた。

鈴木事務局長の進行によって始まり、会員総数六十六名の内、出席会員十九名、委任状提出会員三十四名を確認。始めに、佐々木支部長から、設立五十周年記念事業の一つである訪韓交流登山を無事に終えたことへの感謝と、日本山岳会の公益法人への移行に対する懸念や、支部会員の高齢化等を含めて、当支部で出来ることを出来る範囲で行う事として、支部の運営にご協力をお願いする等との挨拶があった。続いて、今野(昌)副支部長を議長に指名して、案件の審議が行われた。

案件一 平成二十二年度の事業について鈴木事務局長が報告。訪韓交流登山(老姑壇・月出山・弥勒山)の実施、北東北三支部交流登山(四角岳)、太平洋山中岳へ二等三角点位置確認標柱設置、支部山行、会報の発行、支部長会議、事務局担当者会議、本会総会並びに年次晩餐会への出席等の報告。

案件二 平成二十二年度収支決算について福田常務委員(会計担当)が報告。高橋会計監事から、四月一日、秋田市のアルヴェにおいて行われた会計監査の結果、特別会計も含め、関係書

類が適正に処理されていることが報告され、事業及び決算は承認された。

案件三 平成二十三年度事業計画について鈴木事務局長が説明。支部山行として、春・秋の里山山行、青森・秋田・岩手の三支部合同の四角岳・中岳登山、自然保護全国集会、本会通常総会、年次晩餐会、支部長会議等への出席。公益的事業として、太平洋山開き市民登山への協力、韓国山岳会慶南支部来秋登山の計画等が報告されたが、東日本大震災の為、どのようなか検討がつかないが、計画案としたいとの説明があった。

案件四 平成二十三年度予算案について福田常務委員が説明。事業、予算案共に承認された。

案件五 役員改選については選考委員(今野(昌)、杉山、堀井、大山(健))によって審議した結果、左記のとおり推薦され、承認された。

二十三年・二十四年度の役員は次の通り。

- | | | |
|------|-------|-------|
| 名譽顧問 | 保坂隆司 | 進藤昭 |
| 顧問 | 長岩嘉悦 | 安東武俊 |
| | 佐藤昭義 | 北林嘉鶴子 |
| 支部長 | 佐々木民秀 | |
| 副支部長 | 鈴木要三 | 今野昌雄 |
| 事務局長 | 鈴木裕子 | |
| | 福田光子 | 柳田勇悦 |
| | 鎌田倫夫 | 佐藤博 |
| 委員 | 堀井弘 | 石川祐子 |

役員改選・事業計画等決まる — 支部長・副支部長留任 —

- | | | |
|-----|------|------|
| 監 事 | 柴田 勸 | 伊藤秀雄 |
| | 杉山雄幸 | 三浦眞六 |
| | 安藤金栄 | |
| | 高橋忠雄 | 大山健助 |

総会は午後四時に終了し、引き続き行われた懇親会では、進藤名譽顧問の乾杯の発声で始まり、春山山行への期待、会員の山行情報等、それと東日本大震災のことが大きな話題となった。

進藤名譽顧問の乾杯で懇親会開催



総会風景



お礼

次の方々からご芳志を頂きま
した。厚くお礼申し上げます。
進藤昭 一万円、安藤武俊 五千元
佐藤昭義 五千元、佐々木民秀一万円、
北林嘉鶴子 五千元、
清酒 鈴木裕子

出席者

進藤昭 佐々木民秀 北林嘉鶴子

福田光子 今野昌雄 杉山雄幸
大山健助 鈴木裕子 堀井弘
鎌田祐夫 佐藤博 高橋忠雄
石川祐子 柴田勸 伊藤秀雄
三浦眞六 安藤金栄 熊谷光子

総会のみ出席 佐藤栄治
懇親会のみ出席 小笠原義雄

春の里山山行

神宮寺岳・伊豆山縦走報告

三浦眞六

神宮寺岳、伊豆山、双方高さは三〇〇
米に足りないが、秋田から大曲方面
へ向かう車や電車の右車窓に、三角錐
が重なり合う形良い山である。また、
仙北平野の奥、真昼岳山頂から見ると、
雄物川と玉川の合流地点に突如として
立ち上る姿が特徴的である。

子供頃、伊豆山とその近くの松山
にはよく行った。その時、伊豆山と神
宮寺岳に連なる尾根を忍び長嶺(なが
ね)と教えられた。それは安倍一族が源
義家によって松山に追い詰められた際、
安倍の娘が敵方大将に心をとり、密
かに通い合った道が「忍び長嶺」、その
先、姫神山に続く稜線が「笛吹長嶺」
である。やがて娘は敵方大将の子を
産み、怒った父親により生き埋めにさ
れる。その場所は、薬師神社から姫神
山に登る左脇にあり、そこだけがなぜ
か大きな岩が積み重なっており、岩の
間から今も女泣き声が聞こえることが
あると。伝説とは知らず、子供の私に

とつて、姫神山地の所々に、悲しくか
つ怖くて近づけない場所があった。
今回この山行はこの悲恋に関する場所
の一角である。

五月十四日、当日の朝、地元である
今野(副)会長、佐々木長秀会員は岳
見橋の袂で私達を待っていてくれた。
雨の予想にもかかわらず、その気配は
なく滑る登山道の心配もなさそう。

登山口に車を置き、午前九時神宮寺
岳に向け出発。私だけは伊豆山から下
山後、車を取りに行く運転者を送るた
め逆コースで登る。下山口に車を置き
伊豆山へ。神宮寺岳との鞍部には東北
遊歩道の朽ちた道標が立ち、かすかな
踏み跡を辿り神宮寺岳に向かう。頂上
に着くと、一足先に着いた本隊が記念
撮影を行おうとしていた。

この頂上には嶽六所神社があり、雪
解け前の三月始め、神宮寺住民が、大
きく重い梵天を担ぎ、急な雪道を登っ
てくるという。その至難さはどこの梵

天にも負けず、地元民の信心深さだと
いう。頂上からの展望はあまりきかず、
杉や雑木の間に北に流れる雄物川を望
む。

神宮寺岳山頂にて



神宮寺岳から伊豆山へは吊り尾根状
で、下り中ほどまで今野(副)会長が
刈り払ってくれた小さな道を下り、「忍
び長嶺」へと進み伊豆山山頂に着く。
ここには伊豆山神社がある。鬱蒼と
した杉木立に囲まれたこの神社も梵天
が奉納される。花館住民により厳冬の
二月、雄物川を渡し船で渡った梵天は、
やがて伊豆山の急な登りにかかると、
お酒の入った若い衆の鼻息は一段荒く
なるという。

伊豆山の下りは、車を回送する会員
が一足先に出発。山菜を横目に見なが

ら滑る足に気を引き締めて下る。車の
回送中、本隊の一行が山菜に気をとら
れている内、一部の人が違う方向に下
山したらしいとのハプニングを知らさ
れる。

直ちに鎌田会員と後を追いかけた。
神宮寺岳と雄物川の淵を回り、今朝の
登山開始地点で昼食をしている二人に
やっと思いつく。

松山で心配しながら待っていた佐々
木長秀会員と再度合流し昼食。

その後、薬師神社に参拝、目にご利
益有りと聞き、身に覚えのある人は真
面目に手を合わせる。今日だけで、三
回目の参拝。叶う事を信じて登山の安
全と健康をお願いして今日の登山終了。
午後三時、種々ご配慮下さった地元
会員の見送りを受け帰路へ。

伊豆山山頂にて



春の支部山行 神宮寺岳・伊豆山

― 山菜採りを楽しむ ―

鎌田 倫夫

五月十四日(土)、天候が気になり、心持早めに集合場所の岳見橋に到着。激励に来てくれた佐々木(長)会員に見送られ、今野(昌)副支部長の車を先導に登山口に向かう。

九時三十分、雄物川の辺に建つ鳥居を潜り、神宮寺岳登山口を参加者十四名で出発する。

国道十三号線近くのこの山は、近くを通る際、登山者でなくともその形から気になる山ではないだろうか。急傾斜であるものの、山菜を採りながらのせいか、バテ気味の人はなく、四十五分程で嶽六所神社の建つ山頂に到着する。マイカー移動の為、逆コースを登ってきた三浦会員と合流する。神社周辺も山菜が豊富であった。

今野(昌)副支部長から差し入れの串団子をご馳走になり、伊豆山へと向かう。縦走コースはほぼ魔道かと思っていが、刈り払われた跡がある。姫神林道へと続く分岐は鞍部になっており、これより少し登ると開けた作業道に出て、「川を渡る梵天」で知られる伊豆山神社に到着する。立派な社殿である。

ここでドライバー四人が、マイカー移動の為三浦会員と共に先に、整備された参道を下山する。十数分で鳥居の建つ駐車場に着く。後発会員は、豊富な山菜に導かれてコースアウトするハプニングがあった。

所用の為、早めに帰った杉山会員を除き、今朝ほど激励に来てくれた佐々木(長)会員も合流して、姫神公園休憩所で昼食とする。佐々木支部長からは通行手形になるはずだったバナナを、佐々木(長)会員からは地元の笹団子をご馳走になる。

昼食後、姫神山(太平山)中腹に建つ薬師神社を見学して解散となった。参加者

- 佐々木(民) 福田光 今野(昌)
- 小笠原 杉山 鈴木(裕) 高橋(忠)
- 柴田(勲) 伊藤(秀) 三浦 熊谷 鎌田
- 激励参加 佐々木(長)
- 会員外 佐藤(満) 塚田 柴田(路)

太平山山開き 市民登山に協力

六月十二日、毎年六月第二日曜日に開催される「太平山県立自然公園整備促進地域協議会」主催の山開き清掃登山にサポートとして協力。秋田市からは一般参加者七十名程

四班編成で旭又コースと丸舞コースから登る。本年は雪解けが遅れたせい、あやめ坂の姫シヤガが満開、尾根に出るとシラネアオイが花盛りに参加



太平山山頂にて

者は大喜びであった。新装再建された山頂神社で安全登山祈願祭が行われ、記念撮影後下山。多少のハプニングもあったが、事故も無く無事に全員下山した。

- 参加者 佐々木(民) 柳田 鎌田 堀井
- 柴田 鈴木(裕) 安藤(金)
- 福田(光) 佐藤(博) 大橋(忠)
- 伊藤(秀) 長岡 石川 佐々木(長)
- 佐々木(悦) 熊谷

支部保存文書を製本

一時期を除いて、ルームを持たない当支部としては、これまで保管されてきた数多くの各種書類・資料などの保管場所に問題が生じていたが、今冬期



製本された保存文書

○春の北東北三支部合同登山は東日本大震災により中止となりました。

間に整理、設立当時から今日までのものを時代順に整理して製本、秋田支部関係十巻、本会関係六巻に纏めた。これまで事務局を担当され、その時代々を引き継がれてきた事務局保管の各種書類や資料と、佐々木支部長保管の資料を整理したもので、重複しているものは破棄してスリム化を図ったものである。また、これまで各支部から贈呈された各種記念誌や報告書、その他の書籍については、最近のものを除いて、佐々木長秀会員の書棚に保管をお願いした。なお、各支部からのご案内やお知らせ、支部報等は、最近のものを除いて廃棄処分とした。引き続き、本会通常総会、年次晩餐会、その他等の保管されていたものを製本中である。

本会第一回通常総会終える

平成二十三年六月十八日、午後二時から東京都千代田区・主婦会館プラザエフにおいて開催。

平成二十二年事業報告、収支決算・財産目録承認の件、二十三年除籍予定者の件について審議し、原案通り承認された。

公益法人へ移行の為の定款改定の審議については、長時間協議の結果承認された。※支部長会議は秋田支部欠席

会員数情報

平成二十三年度六月通常総会時

◎会員数 五一〇九名

名誉会員 十七名

永年会員 二五七名

終身会員 一二二名

通常会員・他 四七一三名

平成二十二年度の増減

新入会員 一五六名

復活会員 〇名

物故会員 五二名

退会者 一四四名

除籍者 四一名

秋田支部会員 六十六名

(平成二十三年四月末現在)

支部会員動向

退会 泉 祐一 (二十三年三月)

土肥貞之 (二十三年三月)

土肥久美子 (二十三年三月)

会務報告

◎第一回役員会

四月二十一日、午後五時から県民会館(ジョイナス)研修室で開催。

◎役員分担について

自然保護担当 福田光子 堀井弘

会計担当 杉山雄幸

総務担当 伊藤秀雄

◎支部山行

春季 神宮寺岳・伊豆山縦走

担当・今野昌副支部長

秋季 未定

◎事業として、会報の発行、太平山前岳歩道の刈払い、標識取り付け、太平山山開き市民登山への協力等が協議された。

◎その他として、全国自然保護全国集会、全国支部懇談会宮城大会への参加、年次晩餐会、事務局長会議等。

出席者 佐々木(民) 今野(昌) 鈴木(裕) 福田(光) 柳田(杉山) 佐藤(博) 鎌田(堀井) 石川(伊藤(秀) 高橋(忠) 大山(健) 三浦(眞)

行事参加報告

◎秋田県山岳連盟総会

五月二十二日、秋田市「イヤタカ」に於いて開催。十九名出席

二十二年事業・決算。二十三年事業・予算案、その他等を審議。終了後懇親会を開催。

当支部関係者の出席は次の通り 今野(昌) 高橋(守) 莊司 小野

◎中央地区山岳協議会総会

六月三十日、午後六時三十分から秋田市三吉神社に於いて開催。十一団体から十六名出席。事業報告、決算、予算案等報告・審議。

太平山山開き市民登山への協力。登山道上の倒木処理と清掃、刈払い、標柱設置等。その他、情報交換と整備要望等を協議。また、二十二年の秋田県における遭難発生状況及び活動状況の資料を中心に話し合い、終了後、各会の活動状況を報告しながら懇親会を開催。

当支部から佐々木(民)、柴田

他団体から柳田 堀井 出席

東日本大震災 東北四支部の状況確認

三月十一日に発生した地震直後に、隣接県の青森、岩手、宮城と福島各支部長や事務局長へ、お見舞いと会員の安否確認の電話を差し上げましたが、通信不通により、数日かかってようやく状況と人身事故のなかつたことを佐々木支部長が確認した。

訃報

泉祐一氏逝去

泉祐一氏は、病気のため三月末で退会されておりましたが、六月二十七日、入院先の病院で永眠されました。(享年六十三才)

謹んでお悔やみ申し上げます。当支部からは弔電をお供え致しました。

自然保護全国集会秋田大会で基調講演を行うなど、これからの自然保護を含む支部活動を期待しておりましたので残念です。

長白山縦走登山に参加者十一名

アルパインツアー社企画の「秋田支部長白山縦走登山」は、参加希望者が十一名となり、九月十日から十五日までの六日間で実施される事になりました。

慶南支部来秋交流登山を延期

十月に予定されていた韓国山岳会慶南支部との岩手山等への交流登山は、東日本大震災による福島原子力発電所の事故の為、来日を延期したいとの連絡があり、時期未定ではありますが、延期する事になりました。慶南支部からは地震災害のお見舞いのメール、電話が届いております。